

EU・NATO vs ロシアのはざままで
引き裂かれるウクライナ

—境界線でせめぎ合う大国—

＜国際法の遵守、平和・安定・繁栄が基本＞

©羽場 久美子

『ヨーロッパの分断と統合一包摂か排除か』

中央公論新社

『中欧・東欧文化事典』編集代表、丸善

世界国際関係学会 (ISA) アジア太平洋会長

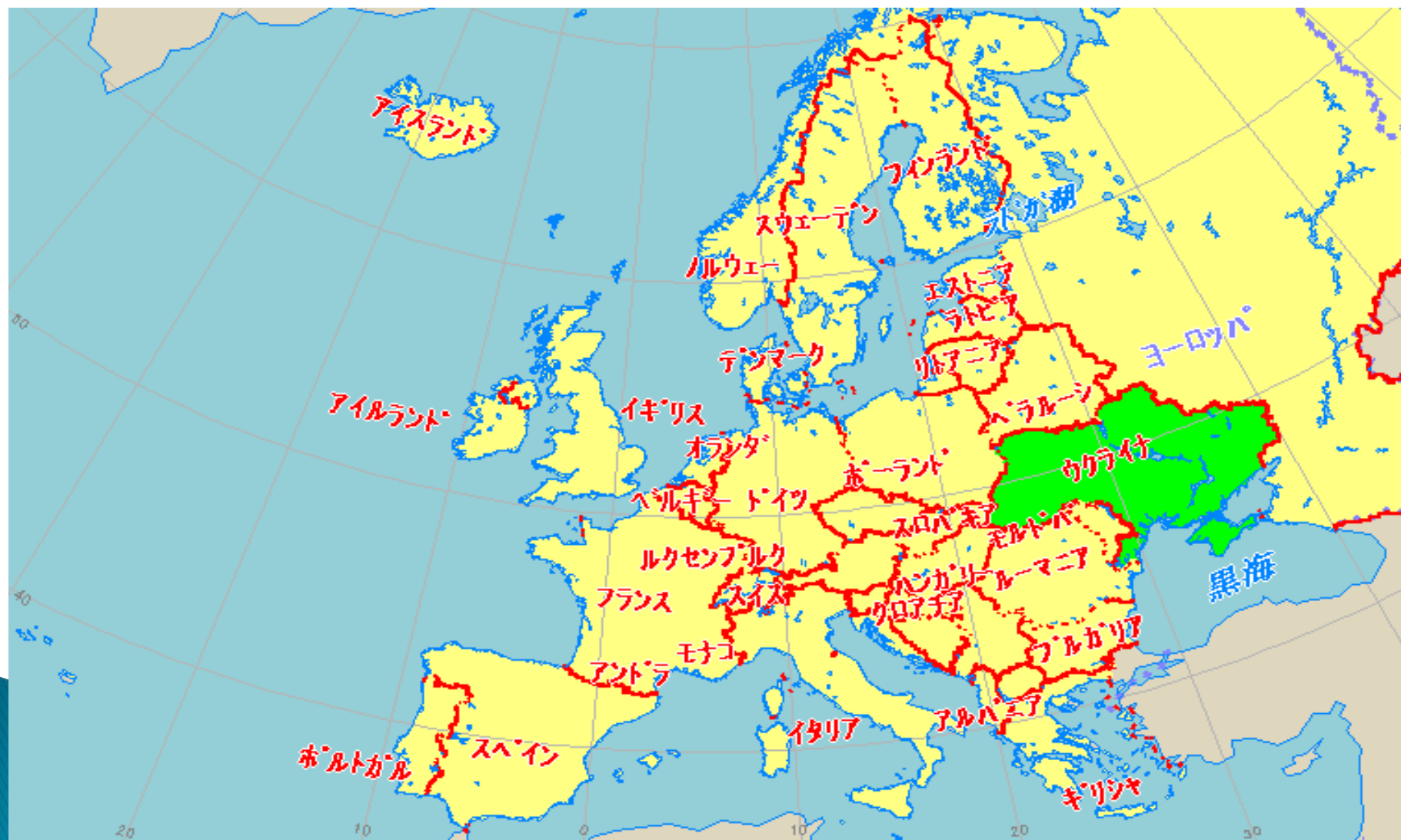
グローバル国際関係研究所 所長

神奈川大学教授・青山学院大学名誉教授

1. EU・アメリカとロシアのはざまで揺れる ウクライナ紛争—何が問題だったのか？

- ▶ 「大国」の視座—EU・米vsロシアがウクライナを巡って対立
- ▶ ★EU,アメリカは何を考えているか。
- ▶ 1. <EU>ヨーロッパ的価値の拡大。—経済的利益と安定。
- ▶ 2. <米・NATO>米は何を望むか？ NATOの拡大
 - ▶ —ウクライナを使ってロシアにとどめを刺す？
- ▶ 1991. ウクライナなどの独立により、ソ連邦解体
- ▶ 3. <ロシア>クリミア死守、ウクライナ死守—地政学的要所。
- ▶ ロシアにとって安全保障上、死守すべき地域。
- ▶ ウクライナ—「ロシアの柔らかい下腹」
- ▶ ★重要 <しかしすでに主権と領土保全権を持つ他国>
- ▶ 4. <ウクライナ>市民の声が、西と東に分断（西、東、中部クリミア）—<多様なウクライナの背景を認識する必要>
- ▶ ★重要<しかしロシアの軍事侵入、首都の制圧により
親ロシアのウクライナ国民も、今や反ロシアへ>

2. ヨーロッパの中のウクライナ(領土大国) ＜EUとロシアの境界線、ドイツの2倍領土＞



3. EUとロシアの「はざま」: 西はEU東はロシア 「ヨーロッパのパンかご」豊かな穀倉庫



4. ウクライナ: 西部/東部/南部に分断—求心力弱い

西部: ヨーロッパ意識大、東部: 新ロシア意識強かった

中部: 多民族海運商業地帯(黒海での商業で活躍)



5. ウクライナとは？—東・西分断国家

面積 60万km²(ドイツ、ポーランドの約2倍) 巨大な小国？

宗教 東 ウクライナ正教会(76%)

▶ 西 東方典礼カトリックなど(16%)

歴史 東部: 1919年ソ連邦に編入、ナチスドイツの侵入、1991
までソ連邦、ウクライナ独立・ソ連邦解体

西部: WWIIまでポーランド、チェコ、ハンガリー(カトリック)

民族 東 ウクライナ人78%、ロシア人17%、

西 ウクライナ人+旧EU諸民族: ポ、チェコ、ハンガリー言語 ウ
クライナ語67%、ロシア語30% (家庭語40%) ★重要なのは、東
部が、人口も多く農業・工業も盛ん

★西部は、山がちで資源も少なく投資にも不向き

西 2004 オレンジ革命、2014. マイダン革命、

東はロシアの影響<東西異なる文化・歴史の併存

独立して地政学的に不利なのは西だった

6. 南部、クリミア半島の役割も重要

- ▶ 1. 地政学的、軍事的な重要性
- ▶ <ロシアにとって最大の**不凍港**3:ウラジオストク、カリーニングラード、クリミア>
- ▶ クリミア半島:ヨーロッパ・アジア・アフリカを結ぶ**ボスポラス海峡への出口**)
- ▶ 不凍港とウクライナを失えば、軍事的要所を抑えられる
- ▶ ロシアにとって、死守すべき地域「やわらかい下腹」
- ▶ 2. <多民族、多宗教、地域主義の伝統>
- ▶ クリミア・タタール、クリミア・ユダヤ人、ウクライナ人、ロシア人(イスラム、ユダヤ、正教会の混合地域)
- ▶ 3. ★ 問題点:クリミアをロシアが軍事的に抑えてから、
- ▶ ウクライナの反ロシア意識、逆に強まる。

ロシアの不凍港3 (カリーニングラード、 クリミア、ウラジオストク・北方領土)



7. ウクライナとヨーロッパ・ロシアの 歴史的ジグザグ(1)13cからソ連崩壊まで。

- ▶ -13世紀 キエフ公国(ヨーロッパの強国) **滅亡**
- ▶ **★西*ポーランド王国、ハプスブルク帝国-カトリック受容**
- ▶ **東** ロシア帝国編入 ↑ (東方典礼カトリック)
- ▶ 1917-8. 第1次世界大戦期、ウクライナ・ソヴィエト
- ▶ **東** ソ連邦編入、戦間期大飢饉(スターリンの政策)
- ▶ 1945. 2. 第2次世界大戦、クリミア=ヤルタでの戦後
処理 ヤルタ会談、「ヤルタ体制」- **欧州の東西分断**
- ▶ 1986. 4. ペレストロイカ期に、チェルノブイリ原発事故
- ▶ 1991年12月「ベロヴェーシの密約」
ロシア、ウクライナ、ベラルーシの独立、ソ連邦解体
- ▶ 1991 ~~独立~~ 独立国家共同体 (CIS)* **「ヨーロッパ回帰」主張**

8. ウクライナとヨーロッパ・ロシアの21世紀のジグザグ(2) — 欧米とロシアの綱引き

- ▶ 1. 2004 *オレンジ革命 (西ウクライナ+キエフ)
 - ▶ ユーシチェンコ「われらのウクライナ」
 - ▶ のち、ティモシェンコ「ティモシェンコ連合」
 - ▶ 2008. NATO理事会で、ブカレスト宣言:ウクライナ、グルジアにNATO拡大承認、独仏躊躇
 - ▶ 2009. EU—ウクライナ他「東方パートナーシップ」EU支援部分的
- ▶ 2. 2010 親ロシア派ヤヌーコヴィッチ大統領、選挙で勝利、
 - ▶ 2011. ウクライナ、「ヨーロッパエネルギー共同体」加盟
 - ▶ 2013. 11. ヤヌーコヴィッチ、EUの連合協定拒否
 - ▶ ロシア、150億ドル支援
- ▶ 3. 2014, 3 マイダン革命 (キエフ)
 - ▶ 対抗—EU、110億ユーロ支援、現実にはIMF
 - ▶ 日本15億ドル支援
 - ▶ →ウクライナの「欧州回帰」鮮明

9. 親ロシア派ヤヌーコヴィッチと、 西欧派オレンジ革命の指導者

親ロシア派 ヤヌーコヴィッチ

西欧派 ユーシチェンコ、ティモシェンコ、ポロシェンコ
ゼレンスキー



- ▶ ゼレンスキー: お笑いタレント: 市民派「国民のしもべ」→
- ▶ アメリカが積極的支援; ゼ、NATO加盟を憲法に記入
- ▶ 西側の方が、資源がなく基盤が弱いところが問題
- ▶ 分裂・独立して地政学的に不利なのは、西
- ▶ 東はたびたび連邦化を主張、連邦化すると
- ▶ 西は経済的独立を保つことが難しい。(東の分離独立困難)

力関係：西欧派青、ロシア派赤

(濃い方がより強い) 引き裂かれた国家

← 西欧派

ロシア派 →



10. 2014年 マイダン革命2.18-21

1) 仕掛けたのは西ウクライナ 2) BUTロシア軍、3.16.
住民投票後クリミア占拠、東の軍事化

▶ **軍事侵入すると国際的孤立を招く。**

1) 2014年2月「**マイダン革命**」—「我々はヨーロッパ」

2) 2014. 3月<**ロシア軍、住民投票後クリミア半島占拠**> クリミア共和国宣言(正式な手続きへず違法とも) ロシアへの編入

3) 2014. 3月<**東ウクライナの軍事化**>—ドネツク、ハルキウ、オデッサなどで、親ロシア派と西欧派の衝突(アメリカ、ロシア双方の介入か)

NATO, EU加盟が議論されるも、ペンディング

11. 2014. 6. 7. – 2019. 5. 20.

ポロシェンコ大統領就任と、軍事化、
東ウクライナへの空爆開始(内戦開始)



ポロシェンコ大統領選挙勝利

ポロシェンコ、ウクライナ軍と

ロシア製地对空ミサイルBuk（双方が持つ）

東部と政府の内戦で、1万3千人の若者が死ぬ
(2014ー)



12. マレーシア航空機撃墜事件

2014. 7.

- ▶ 1. 東西どちらから「誤射」したのか？
- ▶ 2. なぜマレーシア機は撃墜されたのか？
 - ▶ 高度を落とし、東ウクライナの上空を飛行
- ▶ 3. 使われたのはBuk(ロシア製地对空ミサイル)
 - ▶ 一西ウクライナ、東ウクライナ、どちらのBuk?
- ▶ 4. 不可解な情報(たがいに、相手国主張)
 - ▶ **誰にとって有利なのか?**
- ▶ 5. その後の展開—うやむや:
 - ▶ (その後騒がれないことからすると、
おそらくウクライナ側の誤爆か?)

13. 西欧(EU)の仲介

▶ ウクライナの革命、2度起こる。

1. 2004「オレンジ革命」ー「ウクライナはヨーロッパ」

▶ ★EU、必ずしも積極的に支持してこなかった。

▶ 2004年、丁度EUに中東欧10か国が加盟。15カ国から、
◦ 25カ国になった年。

▶ EU、中・東欧、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビア
◦ の国々を迎え入れる準備。

▶ **ウクライナを入れるには、準備が整わない。**

▶ **ウクライナのオレンジ革命、放っておかれる**

▶ **結果ロシア派が政権復帰。ヤヌコヴィッチEU連合協定拒否**

2014年→かつての反省、EU、「マイダン革命」を支持。

当初、西部勢力の優位vsロシア軍介入！

8月末以降は、東部優位、西部敗退

14. **ドイツ・メルケルの仲介**：「欧州安全保障はロシアと共に築く」ウクライナ・ポロシェンコ、ロシア・プーチンの対話



15.ウクライナ問題に関する、プーチンvs オバマ(仏、オランダの仲介)2015.2



ミンスク合意2 2015.2.11. OSCE監督 ベラルーシ・ロシア、ドイツ・フランス・ウクライナ



16. ミンスク合意(OSCE監督)2015. 2.11. ドイツ、フランス仲介:東部ウクライナ停戦

ミンスク合意の主な内容

- 戦闘の停止(停戦)
- 前線からの重火器の撤去
- ウクライナの法律に基づいた地方選挙の実施
- 恩赦と捕虜の釈放
- 人道援助と社会保障
- 外国軍とよう兵の撤退、非合法集団の武装解除
- 非集権化を骨子とする憲法の改正

17. 停戦ラインと緩衝地帯2015.2.

停戦ラインと緩衝地帯



18. 2019.. 20. 西と東の膠着状態の中、東の一部住民(12%)を除く大統領選挙で、ゼレンスキー勝利。欧米接近EU/NATO加盟を憲法に。」親ロシア派を国家反逆罪で逮捕。 2021.6. バイデン、G7で「価値の同盟」 2021.9. バイデン、ゼレンスキーに、6000万ドル(66億円)で対戦車ミサイル支援 (ホワイトハウス) 22. 12月より武器援助。アメリカのウクライナ軍事援助25億ドル相当に(3000億円)



19. 2022.2. 24.

ロシアウクライナに侵攻

▶ 1. アメリカ・インテリジェンスからの通報
通常、アメリカはIntelligence からの情報を公開しない
アメリカの報道の仕方が、変更。

2月16日、北京オリンピック最中のウクライナ攻撃予告(バイデン)
実際には、16日には何も起こらない。

2. ロシアの攻撃開始 2022. 2.24.

ルガンスク、ドネツク人民共和国の独立を承認2.22. ★
東部に侵攻 ミンスク合意破棄

→ その後各方面から、首都キエフ(中部、西部ウクライナ)にも進撃
2022.2. 27 キエフを陥落目的か？

アメリカ、武器供与開始。

ドイツ、ウクライナに地対空ミサイル提供

(アメリカ、自らは手を汚さない。代理戦争開始)

犠牲はウクライナ市民に。

ロシア、西が手出しをすれば、「核兵器使用」も示唆。言語道断

20. とつするべきか？ウクライナ問題の解決方向

(1)安全保障 NATOの変容と復興

<停戦交渉と、NATO拡大停止>

ロシアがウクライナ進撃をやめなければ実効性なし

★<NATO拡大の停止(ウクライナの中立化)を条件に戦争終結>

★しかしこの段階では、ウクライナは、中立条件をのまないだろう。

- ▶ 1990. ブッシュ、NATOの不拡大を約束
- ▶ 1991. ソ連邦崩壊、NATO ,ローマ条約で「危機管理の同盟」へ
- ▶ 1999. ポーランド、ハンガリー、チェコ、3カ国NATO加盟 19
- ▶ 2002.5. NATOロシア理事会設立 19+1
- ▶ 2004. ルーマニア、ブルガリア、7カ国加盟 26
- ▶ 2009. アルバニア、クロアチア 28
- ▶ 2017. モンテネグロ
- ▶ 2020. 北マケドニア 30
- ▶ 旧ソ連各国(ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、モルドバ)以外
- ▶ のほとんどが参加 今回ウクライナ拡大

<ロシアがウクライナを軍事崩壊させる前に、停戦合意必要だった。>

ウクライナが、ロシア軍によって解体させられたら、逆にロシアは終わり

→ ロシアの解体、安全保障理事会から外されるなどの制裁？

21. NATOの急速な拡大へのロシアの脅威 アメリカ、アフガニスタンから軍を撤兵。 ウクライナと東アジアへ移動。

ウクライナ問題とNATOの東方拡大

NATO

「北大西洋条約機構」
米国や西欧諸国を中心とした軍事同盟
冷戦後は旧ソ連含む東欧諸国も次々加盟

ソ連崩壊前の加盟国



1999年以降の加盟国



ウクライナ

NATOへの加盟を希望



アメリカ

ウクライナの主権を尊重



ロシア

NATO「不拡大」の
権利を要求

時事通信の記事を基にYahoo!ニュース制作

写真:ロイター/アフロ, Ukrainian Presidential Press Service/ロイター/アフロ, 時事通信/ロイター/アフロ

22. どうなる？

ウクライナ問題の解決方向 (2)経済

既に開始？ 国際経済からの締め出し

- ▶ ①ロシアの石油、天然ガスのパイプライン拒否。
- ▶ ②国際金融決済SWIFTからの締め出し
- ▶ ③プーチン、ラブロフの個人資産凍結

これだけでは、ロシアの軍事侵攻を止めることはできない。

- ▶ ウクライナ国民に、これ以上の戦争被害を出すことを止めることが急務。
- ▶ 国際社会が懸念する中、米、ドイツ、軍事支援を本格化
- ▶ ロシア・ウクライナ、国際社会は、戦争中止の努力を停戦協議と、実質的戦争中止を。

23. 結論と展望—国際社会の役割

1. ウクライナ問題とは何か？—東西の綱引き。米口のはざま。

▶ しかし、★ロシア軍の「平時での」他国侵入:主権と領土の侵害、

▶ 国際法の蹂躪。これを国際社会としては許すことはできない。

▶ ロシアは、わたってはならない橋を渡ってしまった。

軍事力ではなく、あくまで外交交渉によって問題を解決すべきだった。

→→ 可能な限り早期の停戦合意を！

このままでは世界中がウクライナの軍事支援を支持。ロシアへの制裁は無限。

2. ★アメリカ、武器供与とNATO拡大を非難されないために、

▶ ロシアのウクライナ侵攻が必要であった。なぜロシア軍はキエフまで侵攻したのか？何がロシアを、西ウクライナまでの侵攻、政府転覆まで試みさせたのか？

3. 日本、中国、インド「非同盟」の隣国として、東アジア日中韓全体で、平和と安定、主権尊重、即時停戦の声明を出せないか？<平和の仲介を東アジアから！>

4. ★国連決議80カ国のウクライナ侵入反対決議重要。

▶ ロシアが、国際法規を守れず他国侵攻を行うなら、安保理常任理事国資格はく奪も検討される可能性が高い。

▶ 4. ウクライナ市民、ロシア市民の戦争停止要請 国際市民からの、軍事力行使と他国侵入反対声明 市民社会としては重要。

<境界線上でのパワーの衝突:アメリカも含め、軍事力、武器供与でなく、平和と安定、主権尊重と、国際法規遵守、外交交渉による解決こそ重要！>

★ロシアは、プーチンの、軍事行動を止める勇気を。

★世界は、国連、国際社会から、軍拡、核兵器威嚇に圧力を。

ウクライナとEU、関連文献

- ▶ 黒川祐次『物語ウクライナ史』中公新書、2002.
- ▶ Kumiko Haba, “Ukraine, Divided Nation Between the EU/NATO and Russia”, *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Ed. by Kumiko Haba, Center for International Studies, Aoyama Gakuin University, 2019. March
- ▶ Ukraine, *the EU and Russia—History, Culture and International Relations, Studies in Central and Eastern Europe Series*, ed. by Stephen Velychenko, Palgrave, Macmillan, 2007.
- ▶ 伊東孝之、「NHK視点・論点「ウクライナ停戦合意の背景と意味」」2015.3.12
- ▶ 服部倫卓『ウクライナ、ベラルーシ、モルドバ経済図説』ユーラシアブックレット2011
- ▶ 羽場久美子『ヨーロッパの分断と統合—拡大EUのナショナリズムと境界線』中央公論新社、2016. 3. (「ウクライナ、EU・NATOとロシアのはざままで分裂する国家、せめぎ合う大国」)
- ▶ 羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦—グローバルパワーとしてのEU』中公新書、2014. 4. 増補版 (「NATOのコソヴォ空爆とバルカンの民族問題」)
- ▶ 羽場 久美子・溝端佐登史編『ロシアと拡大EU』ミネルヴァ書房、2011. 4.
- ▶ 藤森信吉、「ウクライナ時事評論」(IT)
- ▶ 藤森信吉「ウクライナとEU」羽場久美子編『EU(欧州連合)を知るための63章』明石書店、2013.10(2014.3刷)
- ▶ 藤森信吉「欧州拡大とウクライナ」羽場久美子ほか編『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店、2006.
- ▶ 藤森信吉「EU・NATOとウクライナ政治」羽場久美子・溝端佐登史編『ロシア・拡大EU』ミネルヴァ書房、2012.